

先祖彼岸大供養会

9月21日(土)午前9時半より



轉法輪

心性は清淨なり
是れ即ち
菩提なるが故に

弘法大師

平成二十五年八月二十八日発行
発行所 犬飼山 轉法輪寺
〒六三七一〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七一三一四四〇三
FAX〇七四七一五一四七一七
編集発行人 桑山慈紹
和・伊都郡かつらぎ町妙寺
印刷所 森本印刷工業所

彼岸大供養会のご案内

田んぼの稻が青い穂をつけ始めました

さて、九月二十一日(土)には、
彼岸供養会を厳修します。

ご先祖様を偲び、手を合わせ、
静かに自分自身をふりかえるひ
とときを持てればと思います。

多数お参り下さい。 合掌

犬飼山 轉法輪寺

名譽住職 桑山聖規
住職 桑山慈紹
後住 桑山聖淳

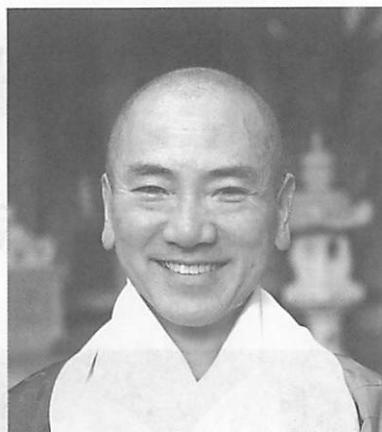
法話午前十一時より

長崎県

大河榮正僧正
仙乘院

彼岸に至る

住職 桑山慈紹



名古屋の医師に、沢山の医薬品と沢山のお花を注文されました。沢山のお花を一体何に使うか不思議に思いましたが、云われた通り被災地に届けました。

使い、態度、考え方によって、香り（におい）は変わるでしょう。良い香りを出したいものですね。

ローソク（智慧）のおしえ

ローソクは、自らの頭頂に火を点けてもらい、自分の身を小さくしながら秩序ができ、落ちつきとゆずりあいの心が生れ、病室の中が一変したと聞きました。ハサミで茎から切られても、やさしく、ほほえみ、はげまし、いやし、なごませ、精一杯けな気に咲く花のおしえに心がなごみ、励まされます。

暗闇に一本のローソクがあります。周囲を明るくし、温かくしながら、やがてすべて溶けて消えてゆきます。

寒い時、一本のローソクが温かい。その時、ローソクの中に父や母、恩ある人の姿をみるのです。

ローソクのおしえ。それは、自らもローソクの様になれとのおしえとも云えるでしよう。

彼岸に至る道、それは自分一人でゴーインする競争ではありません。

それは、共に手を取り合つて、支えあって、励ましあつて至る道。その心がけができるて来た時、その人はもうすでにこの世に於て生きながら彼岸にいる人だと思います。その人は、すでに生き

暑さ寒さも彼岸までとは古人の名言であります。四十度を超える猛暑、ゲリラ豪雨と、被災された方々に、先お見舞い申しあげます。

さて、彼岸に至る道として先徳は六つの舟で彼の岸（理想の世界）に渡りなさいと申されました。その一部を今日はご紹介致しましょう。

お花（忍辱）のおしえ

阪神淡路大震災の時、神戸の医師が

線香（精進）のおしえ

線香は、自らの頭頂に火を点けてもらら

い、自分の体を小さくしながら、周囲によい香りを届け、やがてすべて灰となつて消えてゆきます。線香の自分の身を焼く姿に、自分自身が体一杯に汗をかいて他の人のために尽くす姿を見ることができます。

良い香り（におい）をだすにはどうしたら良いのでしょうか。その人の言葉

生かせいのち

【第三十九話】

名誉住職 桑山聖規



しばらくすると、秋の彼岸会となります。この先祖供養は日本仏教の美風で永遠にいのちが続いていると信じての行為であり、また報恩のためあります。

私達の肉体的の生命の始まりは、生れた時です。永遠にいのちが続く事は、目に見えないので、死ねば全てが無くなり、死後の供養は必要なと思う人が増加した感があります。佛教では、過去世、現世、未来世の三世は、いのちが続いていると教えられて、これを信じて実行しているのです。人生の終わりの時、高野山の僧正は遷化^{せんげ}と言ひ（此の世より仏の世界に移り替わること）、死亡とは言いません。

永遠のいのち

猛暑の中で、精靈棚を造り、御先祖様をお迎えして種々の妙供^{みょうく}を献^{けん}じ、御縁ある僧侶の方の読経をいただかれた事と思います。

弘法大師は大日如来と同体になり、「未來永劫^{みらいえいごう}」に生き続けて、迷^{まい}苦しむ者を残らず救濟^{きゅうさい}せん」と大誓願^{だいせいがん}をたてて一千五百八年前に御入定されました。大師は仏の世界におうつ

りになり、今も生きとおして、迷える我らの為に教えと靈力で守り続けておられるのです。

私達も弘法大師と同じように人間に生まれて、同じように尊い佛性^{ぶっしやう}を心中に頂いています。この佛性は、信じても信じなくても変わることなく、また消えて無くなるものではありません。私達は生きるために欲望を持っています。この欲望の為に、罪を造ることもありますが、罪により佛性は穢^{けが}れる事はありません。蓮の花は泥沼の中^で育ち開花しますが、花に泥土は少しもついていません。美しく清淨なる事、目がさめるくらいです。此の如く、私達の心中の佛性も、生きる為の欲望により穢^{けが}れる事はありません。

私達が毎日読誦している理趣經^{りしうきょう}の初段には十七の欲の行為は清淨にして菩薩^{ぼさつ}の位と明言してあります。また大般若經の理趣分經には総ての欲望は本性清淨^{ほんじょうせうじょう}と何回も書いてあります。

す。御先祖の靈も、これを聞き、迷いが無くなり、佛性を覺つて無上道に入るのです。

佛を信じ、佛の教えを信じ、佛の教えを説く僧を信じて佛の子としての自覺を堅持して發心し、佛の子として恥じない生活をすれば佛の子が佛の道を進むのですから、佛になれるのは当然で、命終われば佛の世界に直行出来ます。

弘法大師は、親から頂いたこの肉身のままで、生きている間に佛になる道をあきらかに説かれました。「死んで後生に佛になる事は遅い、生きている間に佛になれるからめざめなさい」と。

しかし、「欲望に満ちて腹を立て、争い、悪口や嘘を平氣で言い、動物、植物の生命を簡単に殺して平氣でいる人が佛になれるなんて信じられない」と言う人があります。

私「表面から見たところ、あなたの言う通りです。悪人ばかりに見えま

す。然し、真相（実相）は佛より頂いた肉体、生命ですから佛の子ですよ。これから佛の子である実証を話しますからお聞き下さい。

私たちは、大地の恵み、水の恵み、火の恵み、空氣の恵み、空の太陽・月・星の恵みにより生かされている事は、絶対間違いない事です。この五大に恵みの心があります。

此の五大と心とが法身の大日如来です。信じても信じなくとも此の五大の中で生かされているので皆佛の子であります。勿論、他の動物・植物も佛性があり心があります。」

③佛教以外の神道の人は神の教えをよく聞き守り神の世界に入つて下さい。

信じても信じなくともいのちは永遠に続いている事は間違いありません。信じて下さい。

④佛や神の世界に入れぬ人は、どうなるのでしょうか？

それは迷いの世界に落ちて苦しみます。余りの苦しさの為に、血縁・子孫に頼り厄難病気に出ることもあります。

佛の子でも 佛の世界に行けない人

①佛が、我が子よ、早く来なさいと手をさしのべてお待ちして下さつていても、それを信じない人は救う事は出来ません。目ざめる迄、佛は待つておられます。

九月二十一日は信者皆様の先祖供養を行います。お申し込みの上是非参拝下さい。有難い法話もあります。

心に宝を—9—

「修行」とは

平成二十五年 お盆

橋本市

宝形山 地蔵寺

井上覚善

去る七月の中旬、還暦を過ぎたある男性が、六十四年の生涯を静かに閉じ往かれました。その方はある檀家さんの弟さんでしたので、ご縁で私がお弔いをさせていただきました。そして枕経の読経の後、親族の方に故人の生前中の事を色々とお尋ねしておられますと、大変驚くと同時に深く感銘を受けたエピソードがありました。

それによりますと、男性はとても利発で運動神経にも大変優れた方であつたのですが、中学二年の夏、紀ノ川にて遊泳の折、ある高所から川に飛び込んで際、たまたま川底におおきな岩が

あり、その岩に頭を打ち付けてしまい、頸椎損傷にて首から下が完全麻痺という、重度の障害の身となつてしまわれたのです。それからは辛く苦しい入院生活を送ることになり、元気一杯で夢や希望を持っていた少年が、突然、自分之力では何もすることが出来なくなり、たとえようのない苦しみ・悲しみや歯がゆさや怒り、将来に対する绝望など、私たちの想像を絶するような試練を経験されたのでありました。

しかしながら、驚く事に、この男性は、五十年間もの長きに渡る入院やリハビリ施設での不自由な生活を余儀なくされた身でありながらも、この困難を受けとめ・乗り越えられ、胸に宿す「心」だけは、輝きを失う事なく、常に「優しさ」「思いやり」「笑顔」を忘れず、なんと、スタッフ達みんなから慕われ、皆の良き相談相手をされていました。

私はこの話を聴いて、涙が止めぞな

く溢れてきて、「私のような坊さんなど、足元にも及ばないような、立派な凄い修業をされた素晴らしいお方だなあ。」と深く深く感銘を受けました。私たちには「修業」というと、僧侶などが行なう、座禅や灌頂などの特別なことをイメージしがちであります。真の修行とは、「限りある命・人生を精一杯いきる」ということではないでしょうか。

生きておれば、人それぞれ皆、いろんな辛い事・悲しい事や様々な困難が必ず起ります。そしてその困難から逃げることなく、目をそらすことなく、しつかりと受け止めて、かみしめて、乗り越えていくことが「本当の修行」であると、教えて頂いた様に感じました。

人生とは、長いように思っていても、振り返えればアツという間ではないでしょうか。自分の人生を振り返った時、後悔や悔いのないように精一杯生きたいのですね。

合掌

光を求めて

西吉野町和田 光明院

住職 岩井恵照

その三

私は、今年三十六歳になる孝憲という息子がおります。重度の知的障害を背負っています。

あすなろ園 月日は流れて現在は五條の福祉施設『あすなろ園』へ通っています。たなかの柿の葉寿司の箱折り作業が主な仕事です。細長い七個入りの柿の葉寿司の箱を組み立てる作業です。内職のような簡単なこの子達に適した作業を、年間を通して仕事を回して下さるので、心から感謝しています。

最近は所生の数も増え、百均の仕事やアルミ缶のリサイクルの仕事にも取り組んでいます。アルミ缶のリサイクルの仕事は、口コミで地域の人達の協力が広がって軌道に乗ってきたところ

です。

箱折り作業とアルミ缶のリサイクル作業を週五日・一ヶ月続けて作業工賃は如何ほどと思われますか？九時半から四時までの重役級の就労時間ですしお内職のような単純な作業ですから多くは望めません。以前より少し上がつて約一万円頂いています。月給と言うにはあまりにも少ない金額ですが、本人達は「月給や」と大いばかりで持つて帰ります。

約一万円の昼食代や保護者会費も必要なので、家にいるほうがよほどお金はかかるのですが、たとえ少しでも社会のお役に立つて喜びで頑張っているのです。

幼稚園時代 集団の中育てるのが一番よいと考えて地域の幼稚園へ母親同伴で入園して、しゃべれない孝憲と園児達の通訳のような役割をしておりました。

孝憲はハラハラしている私をしりめに、健常なお友達と一緒にすべり台やブランコで遊び始めました。興味を持つ範囲がいつぱんに広がり、幼稚園の

お友達の大きな声に刺激されてかどんどん言葉が増え、身の回りことができるようになってゆきました。

やがて小学校に入る年齢になり、私どもは「幼稚園で健常なお友達と一緒に遊び廻った姿こそ大切なのではないかなあ。幼稚園で知り合ったお友達と一緒に小学校に通わせてやりたい」と考え、地域の小学校に通わせたい、と西吉野村にお願いしました。

小学校時代 西吉野村は田舎で保守的ですから色々手をつくし、村で初めて障害児学級会・給食は親学級でお友達と一緒に過ごし、その他の時間は障害児学級で岸本先生と一对一で学ぶことになりました。孝憲が学校のリズムになれ、担任の岸本先生と慣れ親しむまでだいぶ時間がかかりました。

岸本先生は障害児と初めて接したのですが、手探りで孝憲の好む勉強方法を見付けて下さり、自分の名前の読み書きや、身近なもの名前などが読めるようになつてきました。学校へ行つて字を習い読み書きするのは、普通ならあたりまえのことです

が『智恵おくれ』だとあきらめた私どもには本当に嬉しいことでした。

新聞や駅の看板を見て「岩井の『い』や」「孝ちゃんの『た』や」と喜ぶ姿に「遅れてるけどそのうちに追いつける」と錯覚した程です。親バカの浅知恵だった、と気づくのにそんなに時間はかかりませんでした。 『つづく』

四国八十八カ所

歩き遍路の

ちよつといい話

松山市
山 本 益 男

歩いているときは

いろんな事に出会うのよ···

その 11

東京の遍路友達からの情報ですが、あのアナウンサーの徳光和夫さんが歩き遍路しているとのことです。こちらでは見ることはできませんが、関東圏

のBS-TBSの「徳さんのお遍路さん」として毎週日曜日の午前9時から放映中のこと。聞くところによると、放送では徳光さんは苦提(伊予)の道場に入っていますが、実際には現在、讃岐を歩いています(先日出張先で口ヶを見てしました)。これで、今年も関東圏からのお遍路さんが少しは多くなるのでしょうか。お遍路に限らず、四国に興味を持つて頂ける人が増えるのは良いことです。

今回は、遍路道といつても車道とかではなく、歩き専用の遍路道でのできごとを書きたいと思っています。とかく歩き遍路に関しては、バイブルともいいうべきへんろみち保存協力会が発行している「四国遍路ひとり歩き同行二人」という遍路道ガイド本が必需品です。

多くの遍路が必ずお世話になっている白地に赤いお遍路のマークの道標の多くはこのへんろみち保存協力会の善意によつて立てられたものです。この最低限に留まつてある目印があるから市街地や山道からの入り口、はたまたなにもない山道の分岐点などを迷わず歩

けるのです(私は、区切り歩きの4回目以降、この色あせているへんろみち保存協力会の道標に時間が許す限り赤マジックでなぞりながら、歩いていました)。歩き遍路の多くの人がちよつとも自分にできるこのような行為をしてくれたらなあと思っています)。

よく宿で「道標が分からなかつたおかげで道を間違えた」とか「道標の位置が悪い」「分かりづらい」など小言を言つてはいる歩き遍路を宿や道中でよく耳にすることがあります。私に言わせれば、「見逃したり、迷つたりしたのは自己責任であり、他人のせいにすべきではない」と思うのです(数年前、松



轉法輪

(8)

山在住のこのへんろみち保存協力会の代表である宮崎建樹さんの山中での遭難、死亡事故は大いに胸が痛みました。

歩き遍路なら必ず山中を歩いていると目にする光景ですが、多くの場合、目印として木の枝に白い布や木札などがぶら下がつてあります。しかしながら、たまに勾配のきつい山道などは私でも?ときどき立ち止まって肩で息をし、「この坂はいつまで続くのか」、「お寺はまだ先なのか」と恨みがまさが口を突きそうになつた時、上り坂に白いきのこがはえている感じで、プレートというか小さなプラカードのようなものが立ち並ぶ光景にでくわすことがあります。よくよく眺めてみると、そのプレートにはたどたどしい文字が書かれています。どうやら地元の小学生がこの石段や坂を登つてくるお遍路さんを力づけるために、思い思いに言葉を書いたものらしいという事が分かりました。「自然を大切に」、「がんばつて」、「あきらめないで」、「笑顔で」等々・・・。プレートの隅にはそれを

書いた生徒の学校名と名前が書かれていました。その中で、「花が笑う、私も笑う」。この一枚のプレートが私を坂道でちょっと立ち止ませたのです。思わず笑みがこぼれてしまいました。汗だくのそして苦しげな顔をすぐに恥じて引っこめました。なぜかその時、子どもたちに、「一本取られたあ!」といふ快さを感じたのです。「そうか、これもお接待だな」。「南無大師遍照金剛」を唱えながらお遍路さんがこの坂を登つてくる(なかなかこのリズムでは歩きにくいのですが・・・)。最初は誰もがこのプレートをげげんに思うかもしれない。あるいは、急坂を登る苦しさでチラ見しただけで気にもとめず足元に視線を戻すかもしれない。しかし、坂は一気に上れない。足を止め、大きく息をつく、ため息かもしれない。や

と感じたことはありますが、「笑つてゐる」と感じたことはないと思います。子どもの純真な感受性に驚き、「ああ、見えないけれど、これは最高のお接待だな」と悟ったのです。これ以降、道ばたの何気なく咲いている花にも思ひを巡らせて歩くようになりました。せつかく貴重な時間とお金を費やしてわざわざ歩いているのだから、これくらいの気持ちの余裕は持つて歩きたいものです。

歩き遍路の場合、大勢の人から親切を頂いています。自己責任ではあります。自分では受けたご恩はすべてわかつてまで歩けたと思わなくてはいけません。自分では受けたご恩はすべてわかつているつもりでいましたが、とんでもない思い違いであることにも気付かされました。自分で気づいていない親切(お接待)のほうがはるかに多いのだとか、そのことに気づかてくれたのが「花が笑う、私も笑う」というこの一枚のプレートでした。ある意味、歩き遍路の極意とでも言うべき言葉かもしれません。

お四国まいりを 終えてのすがしさ

紀の川市貴志川町

矢田弘子

三月二十九日からのお四国まいりが近づいてくるにつれ、花粉症や黄砂の為に、咳が出て咽喉が痛くなり、無事におまいりが出来るかどうかなんだんと不安が大きくなつてきました。かかりつけの先生に薬を処方してもらい症状も治まつてきたので良かつたと思つていたら、三月二十六日から内孫二人がインフルエンザにかかりました。もしかして私も不安になり、又、子供達の母親もインフルエンザにかかっていたらと思うと、今回のおまいりは出来ないと半分諦めていました。でもこのおまいりを楽しみに、半年間かけて準備してきたのに、おまいりを諦めきれな

いと思いました。後は、一心にお大師様にお願いするしかないと……。無事お四国まいりに行かせていただいた、たくさんの方々の助けに感謝致しています。

導師様、はじめ皆様の暖かさにふれながら、有難い、楽しいおまいりをさせていただきました。本当に有難うございました。
合掌

はじめに、天川弁財天に参る。台風十二号の水害で被害に遭つたところだが今は見事に復興の出来た能舞台の見学。宮司様より由来の説明を受け(芸能の神)安全祈願のお祓いを受けた。

昼食は天川村の信者さん、「びわ」にて郷土料理に舌鼓をうち、お土産としてコンニャクとしやもじを頂いた。

午後からは龍泉寺境内を拝観し、本堂で護摩供養に参加する。洞川町内探索後、バスで杉木立の中を大峰山遙拝所へ。山を仰ぎ、般若心経を唱えると心身ともに晴れやかな心となる。

初夏の快晴日に恵まれて、私たち一行は、バスで天川村弁財天並びに洞川龍泉寺にお参りした。途中、近鉄下市口駅で大阪世話人グループが

乗車し、バスは一路目的地へ。車中では、住職の法話や懐かしい昭和メドレーの替え歌を歌い、賑やかな事だつた。

はる八十才、心身ともに健康で元気にも暮らすこともできるのは信仰のおかげとあらためて感謝する。
合掌

世話人研修旅行に

参加して

五條市

森本佳延



去る七月廿五日 轉法輪寺をバスにて出発した一行廿六名は、高野山奥之院の地蔵尊によだれかけを一枚づつ約三百枚奉納の淨行に汗を流しました。

手作りのよだれ掛け 高野山奥之院のお地蔵さまへ



四国八十八ヶ所巡拝

参加者募集中

四国土佐一国まいり

番外「鯖大師」より「西林寺」まで
お参りします。

費用 70,000円(1名様)
(4泊5日)[バス]

日時 平成25年10月29日(火)
～11月2日(土)

お早めにお申込みください。



地蔵尊大法会盛大

去る7月24日

朝早くからたくさんの方にお参りいただき、
ありがとうございました 心より御礼申し上げます。



輝く子安地蔵尊



千灯供養心こめ



朝8時地蔵堂へ入堂



子どもたちの「ないた赤鬼」大熱演でした

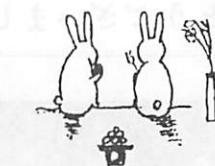
〈写真〉 谷口幸一氏・中本道夫氏・小松真典氏

輪法

先祖彼岸

大供養会

九月二十日(土)
九時半より



彼岸法要

十一時より **彼岸法話**

「私にとつてのお大師さん」

長崎県南島原仙乗院

本山布教師 **大河榮正** (えいじょう)
僧正

《プロフィール》

七五三まいり

仙乗院住職
昭和四十八年生まれ

平成九年高野山大学文学部密教学科卒業
平成十年～平成十二年

口サンゼルス高野山別院開教師
平成十八年高野山真言宗仙乗院代表役員就任



十善戒を受けて仏のみ心にかなう生活
を送りましょう。

一年に一度の授戒をぜひお受け下さい。

白衣・念珠・おけさ持参
(お持ちでない方は寺にてお求め下さい。)

十一月中、七五三のご祈祷を行います。
お子様の健やかな成長を祈つてどうぞ
お参り下さい。

十善戒を受けて仏のみ心にかなう生活
を送りましょう。

一年に一度の授戒をぜひお受け下さい。

白衣・念珠・おけさ持参
(お持ちでない方は寺にてお求め下さい。)

十一月中、七五三のご祈祷を行います。
お子様の健やかな成長を祈つてどうぞ
お参り下さい。

御授戒会

十一月二十日(木)

午前九時半より

先祖供養の申し込み

先祖供養の申し込み用紙を同封させて
いただきました。
当日も受付け致しますが、遠方のかた
は二十日までに送つて下さい。

お大師さまを高野山に導いた鎮守の
狩場明神、丹生明神の感謝祭を行いま
す。

明神の誓い頼もし靈験の

御法の灯火 (ひかり) **絶えぬ犬飼**



丹生、狩場明神感謝祭
十月十六日(水)
午前十時より

先祖彼岸

大供養会

午前十時より

先祖供養の申し込み

お大師さまを高野山に導いた鎮守の
狩場明神、丹生明神の感謝祭を行いま
す。

御法の灯火 (ひかり) **絶えぬ犬飼**